

## 7.11.2 予測及び評価

### 1. 予測及び評価方法

#### (1) 工事の実施

##### 1) 予測事項

陸域植物に係る影響要因と予測事項を表 7.11.2-1 に示す。

表 7.11.2-1 土地の改変による直接的な影響の予測事項

予測の対象となる要因	予測項目
土地の改変による直接的な影響	植生の改変の程度 重要な植物種及び重要な植物群落の 生育状況への影響
造成等の施工による一時的な影響	
建築機械の稼働	
資機材の運搬車両などの走行	

陸域植物に係る影響要因と影響要素を表 7.11.2-2 に示す。

土地の改変による直接的な影響として、生育環境の縮小・消失が挙げられる。

造成等の施工による一時的な影響として、微気象の変化、赤土等の流出、人の立入りが挙げられる。

建設機械の稼働、資機材の運搬車両などの走行の影響として、粉じんや排気ガスの発生が挙げられる。

表 7.11.2-2 陸域植物に係る影響要因と影響要素

影響要因	影響要素
土地の改変による直接的な影響	生育環境の縮小・消失
造成等の施工による一時的な影響	微気象の変化
	赤土等の流出
	人の立入り
建築機械の稼働	粉じんや排気ガスの発生
資機材の運搬車両などの走行	

##### 2) 予測地域

予測地域は、工事の実施により影響を受ける事業実施区域と、影響を受けるおそれがあると考えられる周囲 250m の範囲とした。

予測地域位置図を図 7.11.2-1 に示す。

##### 3) 予測時期

予測時期は、工事計画を踏まえ、土地の改変による直接的な影響、造成等の施工による一時的な影響、建設機械の稼働による影響が最大となる時期とした。

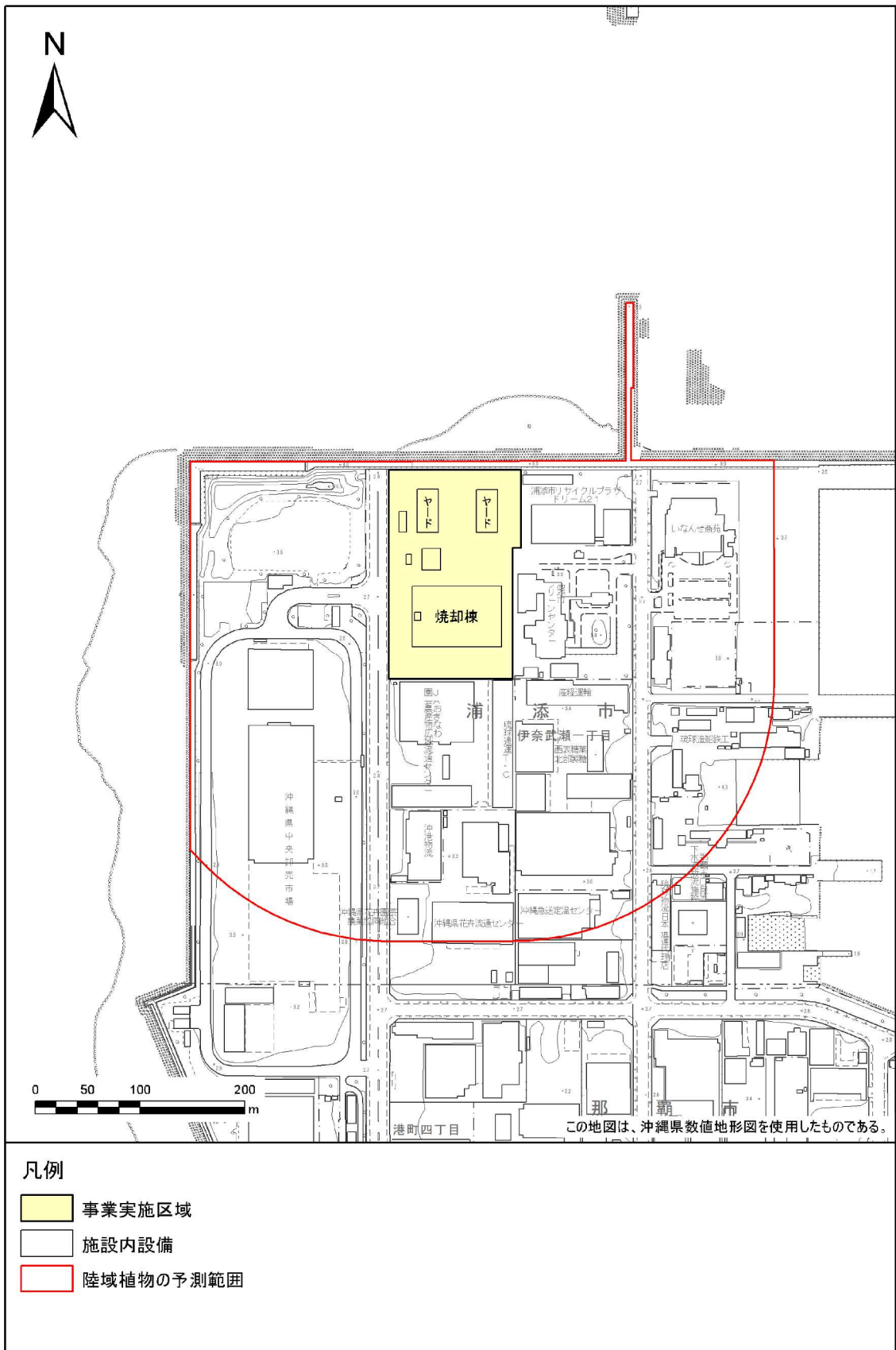


図 7.11.2-1 予測地域位置図

#### 4) 予測方法

予測方法を表 7.11.2-3 に示す。

表 7.11.2-3 予測方法

予測項目	影響要因	予測方法
植生の改変の程度	土地の改変による直接的な影響	現存植生と事業実施区域の重ね合わせを行い、改変により消失する植物群落と消失しない植物群落の面積を植物群落別に比較し、定量的に改変の程度を把握する方法とした。
	造成等の影響による一時的な影響 建築機械の稼働 資機材の運搬車両などの走行	「7.1 大気質」、「7.6 赤土等による水の濁り」の予測結果を考慮のうえ、生態などに関する科学的知見や類似事例を参考に、植物群落の生育状況への影響を把握する方法とした。 微気象の変化は、沖縄県西表島の事例(*)で、道路建設の伐採により、道路の片側 20~50m の幅で、日照や風当たり等の微気象の変化に伴う樹林への影響が示されていることから事業実施区域の端部より 50m の範囲内にある樹林を予測対象とした。ただし、50m 範囲内の樹林であっても、事業実施区域との間に微気象の変化による影響を受けない群落(路傍雑草群落)や、道路などの土地利用状況が存在する場合は、影響は受けないものと判断し、予測対象外とした。 赤土等の流出、人の立入り、粉じんや排気ガスの発生は、工事区域に隣接する植物群落を予測対象とした。 なお、影響が及ぶ範囲や影響の大きさを具体的に示すことが可能な影響要素(微気象の変化)は、定量的な予測を行い、影響に関する定量的な知見に乏しい他の影響要素は、植物群落の特性などによる定性的な予測を行った。
重要な植物種及び重要な植物群落の生育状況への影響	土地の改変による直接的な影響	重要な植物種及び重要な植物群落の確認位置と改変範囲の重ね合わせを行い、改変により影響を受ける重要な植物種を定量的に把握する方法とした。 重要な植物群落は確認されていないため、予測対象外とした。
	造成等の影響による一時的な影響 建築機械の稼働 資機材の運搬車両などの走行	「7.1 大気質」、「7.6 赤土等による水の濁り」の予測結果を考慮のうえ、生態などに関する科学的知見や類似事例を参考に、重要な植物種の生育状況への影響を把握する方法とした。 微気象の変化は、沖縄県西表島の事例(*)で、道路建設の伐採により、道路の片側 20~50m の幅で、日照や風当たり等の微気象の変化に伴う樹林への影響が示されていることから、事業実施区域の端部より 50m の範囲内にある樹林内で確認されている重要な植物種を予測対象とした。ただし、50m 範囲内で確認されていても、事業実施区域との間に微気象の変化による影響を受けない群落(路傍雑草群落)や、道路などの土地利用状況が存在する場合は、影響は受けないものと判断し、予測対象外とした。 赤土等の流出、人の立入り、粉じんや排気ガスの発生は、事業実施区域に近接する重要な植物種を予測対象とした。 重要な植物群落は確認されていないため、予測対象外とした。 なお、影響が及ぶ範囲や影響の大きさを具体的に示すことが可能な影響要素(微気象の変化)は、定量的な予測を行い、影響に関する定量的な知見に乏しい他の影響要素は、対象種の生態情報を参考に定性的な予測を行った。

注)\*: 「エコロード-生き物にやさしい道づくり-」(亀山章 編、1997)

## 5) 評価方法

### ① 環境影響の回避・低減に係る評価

環境影響が、事業者により実行可能な範囲内で、できる限り回避・低減されているか否かについて評価した。

### ② 国・県又は関係する市町村が実施する環境の保全に関する施策との整合性に係る評価

環境影響の予測結果を踏まえて、環境保全に関する基準等との整合が図られているかどうかについて評価した。

## (2) 施設等の存在及び供用

### 1) 予測事項

陸域植物に係る影響要因と予測事項を表 7.11.2-4 に示す。

表 7.11.2-4 陸域植物に係る影響要因と予測事項

影響要素	予測項目
廃棄物処理施設等の存在	植生の改変の程度 重要な植物種及び重要な植物群落の 生育状況への影響
ストックヤードの存在	
廃棄物運搬車両等の走行	

陸域植物に係る影響要因と影響要素を表 7.11.2-5 に示す。

土地の改変による直接的な影響として、生育環境の縮小・消失が挙げられる。

造成などの施工による一時的な影響として、微気象の変化、赤土などの流出、人の立入りが挙げられる。

建設機械の稼働の影響として、粉じんや排気ガスの発生が挙げられる。

表 7.11.2-5 陸域植物に係る影響要因と影響要素

影響要因	影響要素
廃棄物処理施設等の存在	微気象の変化
ストックヤードの存在	人の立入り
廃棄物運搬車両などの走行	粉じんや排気ガスの発生

### 2) 予測地域

予測地域は、施設の存在及び共用による影響を受けるおそれがあると考えられる施設の周囲 250m の範囲とした。

予測地域位置図を前掲の図 7.11.2-1 に示す。

### 3) 予測時期

予測対象時期は、施設の稼働が定常の状況に達する時期とした。

#### 4) 予測方法

予測方法を表 7.11.2-6 に示す。

表 7.11.2-6 予測方法

予測項目	影響要因	予測方法
植生の改変の程度	廃棄物処理施設等の存在 ストックヤードの存在 廃棄物運搬車両などの走行	<p>「7.1 大気質」の予測結果を考慮のうえ、生態などに関する科学的知見や類似事例を参考に、植物群落の生育状況への影響を把握する方法とした。</p> <p>微気象の変化は、沖縄県西表島の事例(*)で、道路建設の伐採により、道路の片側 20～50m の幅で、日照や風当たり等の微気象の変化に伴う樹林への影響が示されていることから事業実施区域の端部より 50m の範囲内にある樹林を予測対象とした。</p> <p>人の立入り、粉じんや排気ガスの発生は、事業実施区域に隣接する植物群落を予測対象とした。</p> <p>なお、影響が及ぶ範囲や影響の大きさを具体的に示すことが可能な影響要素(微気象の変化)は、定量的な予測を行い、影響に関する定量的な知見に乏しい他の影響要素は、植物群落の特性などによる定性的な予測を行った。</p>
重要な植物種及び重要な植物群落の生育状況への影響	廃棄物処理施設等の存在 ストックヤードの存在 廃棄物運搬車両などの走行	<p>「7.1 大気質」の予測結果を考慮のうえ、生態などに関する科学的知見や類似事例を参考に、重要な植物種の生育状況への影響を把握する方法とした。</p> <p>微気象の変化は、沖縄県西表島の事例(*)で、道路建設の伐採により、道路の片側 20～50m の幅で、日照や風当たり等の微気象の変化に伴う樹林への影響が示されていることから事業実施区域の端部より 50m の範囲内にある樹林内で確認されている重要な植物種を予測対象とした。</p> <p>人の立入り、粉じんや排気ガスの発生は、事業実施区域に近接する重要な植物種を予測対象とした。</p> <p>なお、重要な植物群落は確認されていないため、予測対象外とした。</p> <p>なお、影響が及ぶ範囲や影響の大きさを具体的に示すことが可能な影響要素(微気象の変化)は、定量的な予測を行い、影響に関する定量的な知見に乏しい他の影響要素は、対象種の生態情報などを参考に定性的な予測を行った。</p>

注)\*:「エコロード-生き物にやさしい道づくり-」(亀山章 編、1997)

#### 5) 評価方法

##### ① 環境影響の回避・低減に係る評価

環境影響が、事業者により実行可能な範囲内で、できる限り回避・低減されているか否かについて評価した。

##### ② 国・県又は関係する市町村が実施する環境の保全に関する施策との整合性に係る評価

環境影響の予測結果を踏まえて、環境保全に関する基準等との整合が図られているかどうかについて評価した。

## 2. 予測及び評価結果

### (1) 工事の実施

#### 1) 予測結果

##### ① 植生の改変の程度

事業実施による現存植生の改変状況を表 7. 11. 2-7 に、現存植生と事業実施区域との位置関係を図 7. 11. 2-2 に示す。

##### a. 土地の改変による直接的な影響

確認されている 15 の植物群落及び土地利用状況のうち、土地の改変による直接的な影響により、5 つの植物群落(改変率:19.81%)と、6 つの土地利用状況(改変率:9.72%)が縮小・消失すると予測される。

植物群落では、シオカゼテンツキ群落が 100.0%消失すると予測された。また、縮小すると予測されたのは、ハイアワユキセンダングサ群落(改変率 55.02%)、ギョウギシバ群落(改変率:39.80%)、ヒメオニササガヤ群落(改変率:39.61%)、アメリカハマグルマ群落(改変率:35.89%)の計 4 つの植物群落である。

土地利用状況では、張芝が 100.0%消失すると予測される。また、縮小すると予測されたのは、造成裸地(改変率:94.23%)、植樹帯(改変率:13.02%)、造成地(改変率:8.84%)、建築物(改変率:0.17%)、道路(改変率:0.07%)の計 5 つの土地利用状況である。

その他の植物群落及び土地利用状況については、事業実施区域に分布していないため、土地の改変による直接的な影響はないと予測される。

表 7.11.2-7 現存植生の改変状況

植生区分	植物群落及び土地利用状況		面積 (㎡)	改変面積 (㎡)	改変率 (%)
A. 海岸植物群落	A1	アダン植林	900	0	0.00
	A2	オオハマボウ植林	3,136	0	0.00
	A3	クサトベラ植林	2,228	0	0.00
B. 路傍雑草群落	B1	シオカゼテンツキ群落	211	211	100.00
	B2	ハイアワユキセンダングサ群落	1,754	965	55.02
	B3	アメリカハマグルマ群落	744	267	35.89
	B4	ギョウギシバ群落	294	117	39.80
	B5	ヒメオニササガヤ群落	1,391	551	39.61
植物群落 小計			10,658	2,111	19.81
C. 造成地など	C1	植樹帯	13,469	1,753	13.02
	C2	張芝	8,579	8,579	100.00
	C3	建築物	69,532	117	0.17
	C4	道路	29,929	20	0.07
	C5	造成地	92,997	8,216	8.84
	C6	造成裸地	3,569	3,363	94.23
	C7	護岸構造物	8,742	0	0.00
土地利用状況 小計			226,817	22,048	9.72
合 計			237,475	24,159	10.17



図 7. 11. 2-2 現存植生と事業実施区域との位置関係

## **b. 造成等の施工による一時的な影響**

### **(a) 微気象の変化**

事業実施区域周辺 50m 内の樹林に対して、造成等の施工による風当たりや日当たりの変化といった微気象の変化により、林内・林床の乾燥化が進み生育状況の悪化や生育種の変化などの影響が考えられるが、前掲の図 7.11.2-2 より、事業実施区域周辺には、影響を受ける樹林が存在しないため、微気象の変化による影響はないと予測される。

なお、クサトベラ群落は事業実施区域の端部より 50m の範囲内に存在するが、道路で隔てられているため、予測対象より除外した。

### **(b) 赤土等の流出**

事業実施区域に隣接する植物群落に対して、造成等の施工による赤土等の流出により土壌環境が変化することで、生育状況の悪化や生育種の変化などが起こると考えられるが、前掲の図 7.11.2-2 より、事業実施区域に近接する植物群落がないことから、赤土等の流出による影響はないと予測される。

### **(c) 人の立入り**

事業実施区域に隣接する植物群落に対して、人の立入りによる踏みつけや、外部からの種の持込みにより生育状況の悪化や生育種の変化などの影響が考えられるが、前掲の図 7.11.2-2 より、事業実施区域に隣接する植物群落がないことから、人の立入りによる影響はないと予測される。

## **c. 建築機械の稼働、資機材の運搬車両の走行**

### **(a) 粉じんや排気ガスの発生**

事業実施区域に隣接する植物群落に対して、工事による粉じんや排気ガスの発生により生育状況の悪化などの影響が考えられるが、前掲の図 7.11.2-2 より、事業実施区域に隣接する植物群落がないことから、粉じんや排気ガスの発生による影響はないと予測される。

② 重要な植物種及び重要な植物群落の生育状況への影響

重要な植物種の予測結果を表 7.11.2-8 に示す。重要な植物群落は確認されていないため、対象としない。

土地の改変による直接的な影響により、一部の重要な植物種に対して、個体の消失が起こると予測される。また、造成等の施工による一時的な影響、建築機械の稼働、資機材の運搬車両の走行により、事業実施区域周辺に生育する重要な植物種に対して、生育状況の悪化が起こる可能性があると考えられるが、事業実施周辺に重要な植物種が生育していないため、影響はないと予測される。

影響要因・影響要素別の詳細な予測内容を事項以降に示す。また、重要な植物種別の詳細な予測結果を表 7.11.2-9～表 7.11.2-11 に、重要な植物種と事業実施区域の位置関係を図 7.11.2-3～表 7.11.2-5 に示す。

表 7.11.2-8 重要な植物種の予測結果

No.	和名	確認状況	影響要因・影響要素別の確認状況				
			土地の改変による直接的な影響	造成などの施工による一時的な影響			建築機械の稼働 資機材の運搬車両などの走行
				生育環境の縮小・消失	微気象の変化	赤土等の流出	
1	ハマツメクサ	5 地点 66 個体	1 地点 1 個体	—	—	—	—
2	ハリツルマサキ	8 地点 16 個体	3 地点 4 個体	—	—	—	—
3	リュウキュウコクタン	2 地点 7 個体	—	—	—	—	—
計	3 種	15 地点 89 個体	4 地点 5 個体	—	—	—	—

注) — : 該当なし

a. 土地の改変による直接的な影響

重要な植物種に対する影響を予測した結果、確認されている 3 種の重要な植物種のうち、ハマツメクサ(1 地点 1 個体)、ハリツルマサキ(3 地点 4 個体)の 2 種が、土地の改変による直接的な影響により一部の生育地は消失するが、多くの生育地は残存すると予測される。

リュウキュウコクタンについては、事業実施区域に生育していないため、土地の改変による直接的な影響はないと予測される。

## **b. 造成等の施工による一時的な影響**

### **(a) 微気象の変化**

事業実施区域周辺 50m 内の樹林に生育する重要な植物種に対して、造成等の施工による風当たりや日当たりの変化といった微気象の変化により、林内・林床の乾燥化が進み生育状況の悪化や生育種の変化などの影響が考えられるが、事業実施区域周辺には、影響を受ける樹林及び重要な植物種は存在しないため、微気象の変化による影響はないと予測される。

### **(b) 赤土等の流出**

事業実施区域に近接する重要な植物種に対して、造成等の施工による赤土等の流出により土壌環境が変化することで、生育状況の悪化や生育種の変化などが起こると考えられるが、図 7.11.2-3～5 より、事業実施区域に近接する重要な植物種がないことから、赤土等の流出による影響はないと予測される。

### **(c) 人の立入り**


事業実施区域に近接する重要な植物種に対して、人の立入りによる踏みつけや、外部からの種の持込みにより生育状況の悪化や生育種の変化などの影響が考えられるが、図 7.11.2-3～5 より、事業実施区域に近接する重要な植物種がないことから、人の立入りによる影響はないと予測される。

## **c. 建築機械の稼働、資機材の運搬車両の走行**

### **(a) 粉じんや排気ガスの発生**

事業実施区域に近接する重要な植物種に対して、工事による粉じんや排気ガスの発生により生育状況の悪化などの影響が考えられるが、図 7.11.2-3～5 より、事業実施区域に近接する重要な植物種がないことから、粉じんや排気ガスの発生による影響はないと予測される。

表 7.11.2-9 重要な植物種(ハマツメクサ)の予測結果

和名:ハマツメクサ 学名: <i>Sagina maxima</i> A.Gray 分類:ナデシコ科			
【指定状況】 沖縄県 RDB: 絶滅危惧 II 類		現地確認個体	
【確認状況】 現地調査で、春季に 5 地点 66 個体が確認された。秋季では生育を確認できなかった。 春季に確認された個体の生育状況は概ね良好であった。秋季に生育が確認できなかった理由として、季節的な消長が考えられる。			
【生態・形態・分布】 海岸の岩礫地や内陸の陽当たりのよい草地に生える一年生草本。高さ 5~25m、茎は対生し、線形、微凸端~鈍頭、全縁、長さ 0.7~2 cm。花は白色で葉腋に単生する。 県内では沖縄島に分布し、県外では北海道、本州、四国、九州~奄美諸島、小笠原諸島、北米~ロシア極東、中国、朝鮮半島、台湾に分布する。			
【減少の要因】 自生地の開発(海岸砂防堤などの造成)			
確認 状況	直接的な影響		1 地点 1 個体
	間接的な影響		確認なし
	影響外		4 地点 65 個体
予測 結果	土地の改変による直接的な影響		事業実施区域で確認されている 1 地点 1 個体の生育地は、土地の改変による直接的な影響で消失するが、4 地点 65 個体の生育地は影響ないと予測される。 大部分の生育地への影響がないため、生育への影響はほとんどないと予測される。
	造成等の施工による一時的な影響	a. 微気象の変化	事業実施区域周辺で確認はなく、微気象の変化による影響はないと予測される。
		b. 赤土等の流出	事業実施区域に近接する箇所での確認はなく、赤土等の流出による影響はないと予測される。
		c. 人の立入り	事業実施区域に近接する箇所での確認はなく、人の立入りによる影響はないと予測される。
建築機械の稼働、資機材の運搬車両の走行	d. 粉じんや排気ガスの発生	事業実施区域に近接する箇所での確認はなく、粉じんや排気ガスの発生による影響はないと予測される。	

\*: 間接的な影響の確認状況は、「造成等の施工による一時的な影響」、「建築機械の稼働」、「資機材の運搬車両の走行」の影響が及ぶ可能性があるとして予測された地点数と個体数を示す。

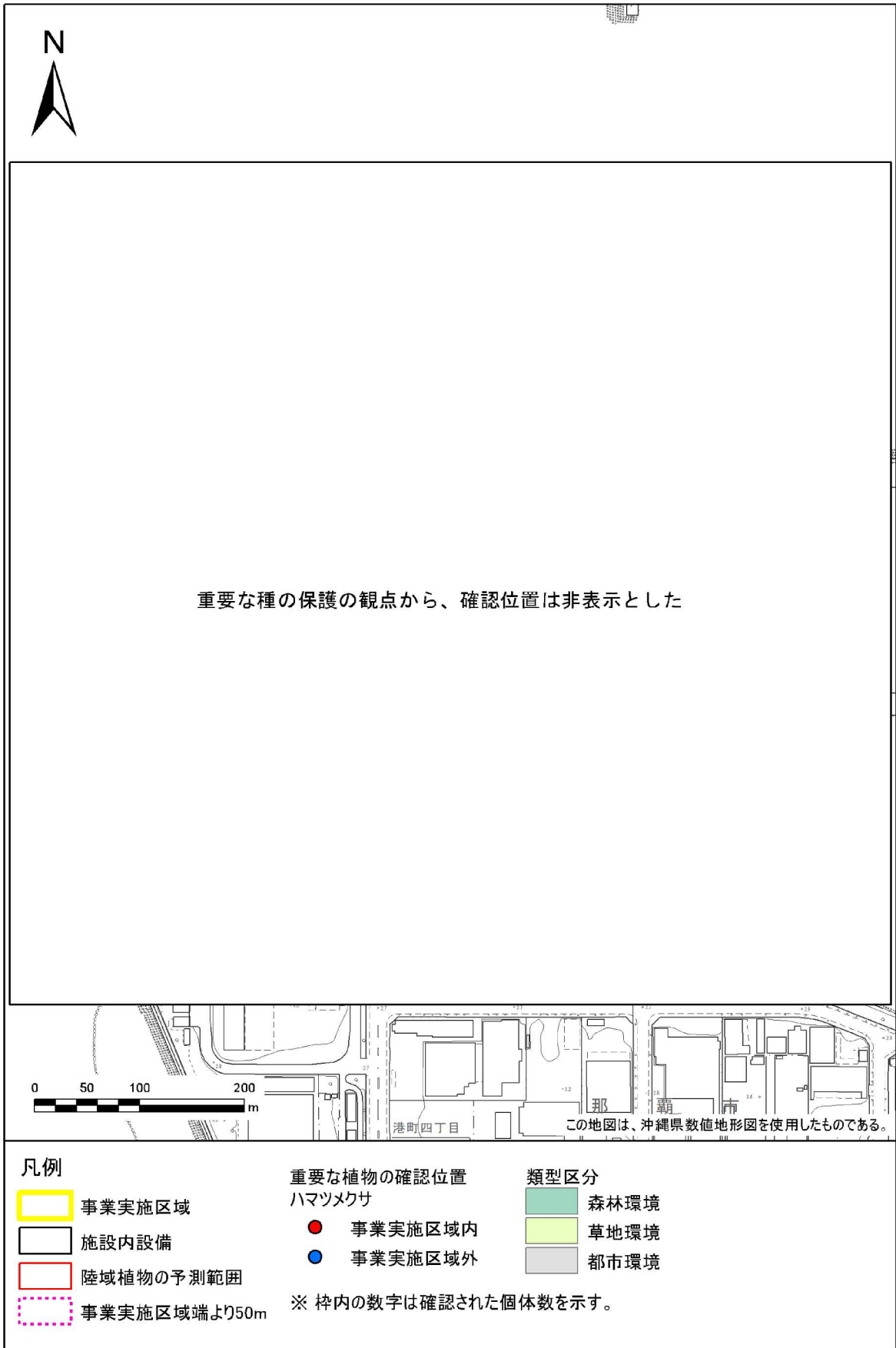



図 7.11.2-3 重要な植物(ハマツメクサ)と事業実施区域との位置関係

表 7.11.2-10 重要な植物種(ハリツルマサキ)の予測結果

和名：ハリツルマサキ 学名： <i>Maytenus diversifolia</i> (Maxim.) Ding Hou 分類：ニシキギ科		 <p style="text-align: center;">現地確認個体</p>	
【指定状況】 環境省 RL：準絶滅危惧			
【確認状況】 現地調査で春季秋季共に 8 地点 16 個体が確認された。 確認された個体の生育状況は概ね良好であった。 なお、調査地域は埋立地であること、本種は広く植栽に利用される種であることから、植栽由来の逸出個体と思われる。			
【生態・形態・分布】 海岸風衝林～山地の森林に生える常緑中高木。高さ 8～12m、葉は互生、倒卵～倒卵状楕円形、鈍～円頭、全縁、長さ 3～7 cm。雌雄異株、花は淡黄色で葉腋に単生又は束生する。 県内では沖縄島、宮古諸島、八重山諸島、魚釣島に分布、県外では台湾に分布する。			
【減少の要因】 園芸用の採集、海岸の開発など。			
確認状況	直接的な影響	3 地点 4 個体	
	間節的な影響	確認なし	
	影響外	5 地点 12 個体	
予測結果	土地の改変による直接的な影響	事業実施区域で確認されている 3 地点 4 個体の生育地は、土地の改変による直接的な影響で消失するが、5 地点 12 個体の生育地は影響ないと予測される。 大部分の生育地への影響がないため、生育への影響はほとんどないと予測される。	
	造成等の施工による一時的な影響	a. 微気象の変化	事業実施区域周辺で確認はなく、微気象の変化による影響はないと予測される。
		b. 赤土等の流出	事業実施区域に近接する箇所での確認はなく、赤土等の流出による影響はないと予測される。
		c. 人の立入り	事業実施区域に近接する箇所での確認はなく、人の立入りによる影響はないと予測される。
建築機械の稼働、資機材の運搬車両の走行	d. 粉じんや排気ガスの発生	事業実施区域に近接する箇所での確認はなく、粉じんや排気ガスの発生による影響はないと予測される。	

\*：間節的な影響の確認状況は、「造成等の施工による一時的な影響」、「建築機械の稼働」、「資機材の運搬車両の走行」の影響が及ぶ可能性があるとして予測された地点数と個体数を示す。

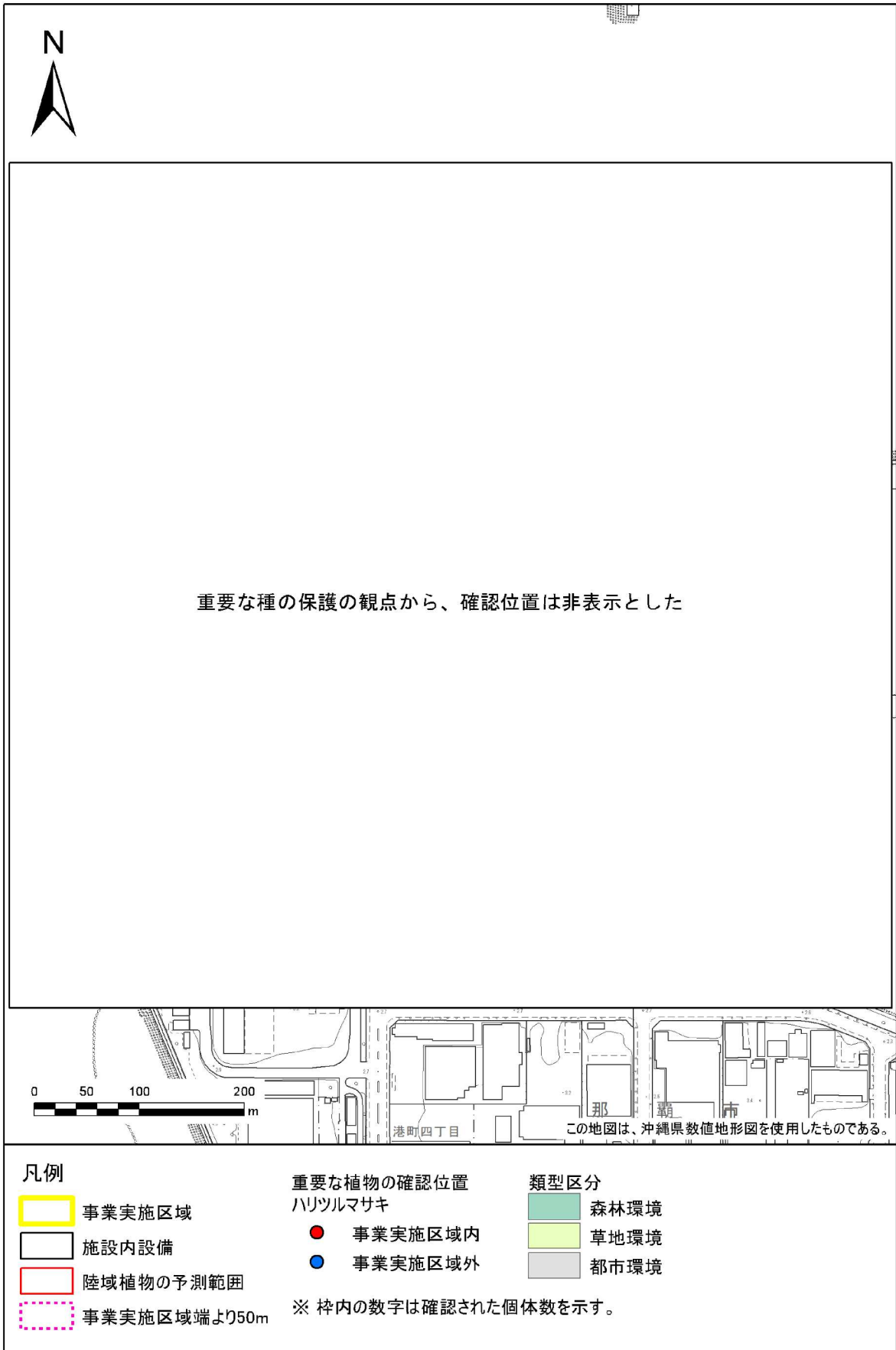



図 7.11.2-4 重要な植物(ハリツルマサキ)と事業実施区域との位置関係

表 7.11.2-11 重要な植物種(リュウキュウコクタン)の予測結果

和名:リュウキュウコクタン (ヤエヤマコクタン) 学名: <i>Diospyros egbert-walkeri</i> Kosterm. 分類:カキノキ科		 <p style="text-align: center;">現地確認個体</p>	
【指定状況】 環境省 RL:準絶滅危惧			
【確認状況】 現地調査で春季秋季共に2地点7個体が確認された。 確認された個体の生育状況は概ね良好であった。 なお、調査地域は埋立地であること、本種は広く植栽に利用される種であることから、植栽由来の逸出個体と思われる。			
【生態と分布】 海岸風衝林～山地の森林に生える常緑中高木。高さ8～12m、葉は互生、倒卵～倒卵状楕円形、鈍～円頭、全縁、長さ3～7cm。雌雄異株、花は淡黄色で葉腋に単生又は束生する。県内では沖縄島、宮古諸島、八重山諸島、魚釣島に分布、県外では台湾に分布する。			
【減少の要因】 自生地の開発など。			
確認状況	直接的な影響	確認なし	
	間接的な影響*	確認なし	
	影響外	2地点7個体	
予測結果	土地の改変による直接的な影響	事業実施区域で確認はなく、土地の改変による直接的な影響はないと予測される。	
	造成等の施工による一時的な影響	a. 微気象の変化	事業実施区域周辺で確認はなく、微気象の変化による影響はないと予測される。
		b. 赤土等の流出	事業実施区域に近接する箇所での確認はなく、赤土等の流出による影響はないと予測される。
		c. 人の立入り	事業実施区域に近接する箇所での確認はなく、人の立入りによる影響はないと予測される。
建築機械の稼働、資機材の運搬車両の走行	d. 粉じんや排気ガスの発生	事業実施区域に近接する箇所での確認はなく、粉じんや排気ガスの発生による影響はないと予測される。	

\*: 間接的な影響の確認状況は、「造成等の施工による一時的な影響」、「建築機械の稼働」、「資機材の運搬車両の走行」の影響が及ぶ可能性があるとして予測された地点数と個体数を示す。

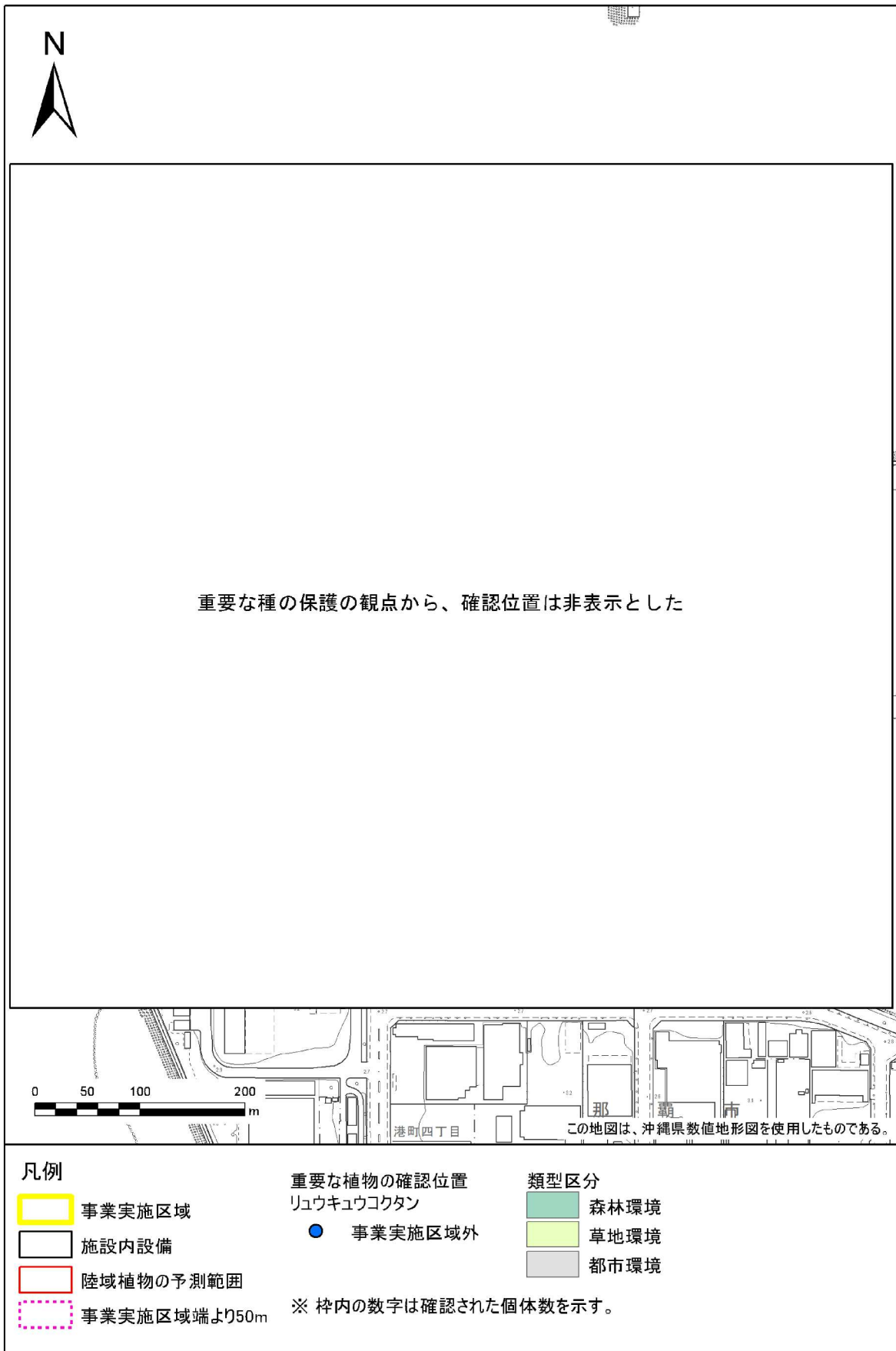


図 7.11.2-5 重要な植物(リュウキュウコクタン)と事業実施区域との位置関係

## 2) 環境保全措置

工事の実施における陸域植物に対して影響はほとんどないと予測されるが、現地調査で指定外来種が確認されているため、工事による指定外来種の拡散が起きないように以下の取り組みを行う。

- ・「生態系被害防止外来種リスト」（環境省）の緊急対策外来種及び「沖縄県対策外来種リスト」（沖縄県）の重点対策種に指定されているアメリカハマグルマが工事実施区域内で確認され場合は、根を含めた除草を行い、密封後に焼却などの適切な処理を行う。

## 3) 評価結果

### ① 環境影響の回避・低減に係る評価

工事の実施において陸域植物に対する影響はほとんどなく、重要な植物種に対する影響は、事業者が実行可能な範囲内において、回避・低減されていると評価する。

### ② 国・県又は関係する市町村が実施する環境の保全に関する施策との整合性に係る評価

沖縄県が平成 11 年に策定した「自然環境の保全に関する指針(沖縄島編)」では、事業実施区域は、評価ランク V (緑地環境の創造を図る区域)に指定されている。

陸域植物については、野生生物保護の観点から定められた法令として、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号）がある。また、種の多様性の維持を目的に発表された「環境省レッドリスト 2020」（令和 2 年、環境省）や「改定・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版 -菌類編・植物編-（レッドデータおきなわ）（平成 30 年、沖縄県）」があり、絶滅のおそれのある野生生物への保全・保護を求められている。

本事業は、事業実施区域の 22.6%を緑化にあてる計画（第 2 章 2.5.9 緑化計画を参照）とされていることや、陸域植物に対して影響はほとんどないことから、上記施策との整合性は図られていると評価する。

## (2) 施設等の存在及び供用

### 1) 予測結果

#### ① 植生の改変の程度

##### a. 廃棄物処理施設等の存在、ストックヤードの存在

###### (a) 微気象の変化

事業実施区域に隣接する域周辺 50m 内の樹林に対して、施設の存在による風当たりや日当たりの変化といった微気象の変化により、林内・林床の乾燥化が進み生育状況の悪化や生育種の変化などの影響が考えられるが、事業実施区域周辺には、影響を受ける樹林が存在しないため、微気象の変化による影響はないと予測される。

なお、クサトベラ群落は事業実施区域の端部より 50m の範囲内に存在するが、道路で隔てられているため、予測対象より除外した。

###### (b) 人の立入り

事業実施区域に隣接する植物群落に対して、人の立入りによる踏みつけや、外部からの種の持込みにより生育状況の悪化や生育種の変化などの影響が考えられるが、事業実施区域に隣接する植物群落がないことから、人の立入りによる影響はないと予測される。

##### b. 廃棄物運搬車両などの走行

###### (a) 粉じんや排気ガスの発生

事業実施区域に隣接する植物群落に対して、廃棄物運搬車両などによる粉じんや排気ガスの発生により生育状況の悪化などの影響が考えられるが、前掲の図 7.11.2-2 より、事業実施区域に隣接する植物群落がないことから、粉じんや排気ガスの発生による影響はないと予測される。

#### ② 重要な植物種及び重要な植物群落の生育状況への影響

重要な植物群落は確認されていないため、重要な植物種を対象とする。

##### a. 廃棄物処理施設等の存在、ストックヤードの存在

###### (a) 微気象の変化

事業実施区域周辺 50m 内の樹林に生育する重要な植物種に対して、施設の存在による風当たりや日当たりの変化といった微気象の変化により、林内・林床の乾燥化が進み生育状況の悪化や生育種の変化などの影響が考えられるが、事業実施区域周辺には、影響を受ける樹林及び重要な植物種は存在しないため、微気象の変化による影響はないと予測される。

## (b) 人の立入り

事業実施区域に近接する重要な植物種に対して、人の立入りによる踏みつけや、外部からの種の持込みにより生育状況の悪化や生育種の変化などの影響が考えられるが、事業実施区域に近接する重要な植物種がないことから、人の立入りによる影響はないと予測される。

## b. 廃棄物運搬車両などの走行

### (a) 粉じんや排気ガスの発生

事業実施区域に近接する重要な植物種に対して、工事による粉じんや排気ガスの発生により生育状況の悪化などの影響が考えられるが、事業実施区域に近接する重要な植物種がないことから、粉じんや排気ガスの発生による影響はないと予測される。

## 2) 環境保全措置

施設の存在及び供用における陸域植物に対して影響はないと予測されるため、環境保全措置は実施しないものとする。

## 3) 評価結果

### ① 環境影響の回避・低減に係る評価

施設等の存在及び供用における陸域植物に対して影響はなく、重要な植物種に対する影響は、事業者が実行可能な範囲内において、回避・低減されていると評価する。

### ② 国・県又は関係する市町村が実施する環境の保全に関する施策との整合性に係る評価

沖縄県が平成 11 年に策定した「自然環境の保全に関する指針(沖縄島編)」では、事業実施区域は、評価ランク V (緑地環境の創造を図る区域)に指定されている。

陸域植物については、野生生物保護の観点から定められた法令として、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)がある。また、種の多様性の維持を目的に発表された「環境省レッドリスト 2020」(令和 2 年、環境省)や「改定・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版 -菌類編・植物編-(レッドデータおきなわ)(平成 30 年、沖縄県)」があり、絶滅のおそれのある野生生物への保全・保護を求められている。

本事業は、事業実施区域の 22.6%を緑化にあてる計画(第 2 章 2.5.9 緑化計画を参照)とされていることや、陸域植物に対して影響はないことから、上記施策との整合性は図られていると評価する。